



# 滋賀陸協広報

一般財団法人 滋賀陸上競技協会  
〒520-0037 大津市御陵町4-1 皇子山陸上競技場内2-1室  
TEL/fax077-527-3925 <http://srkshiga.com>

## 「わた SHIGA 輝く国スポ」いよいよ開幕

一般財団法人滋賀陸上競技協会  
会長 野村昌弘

初秋の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

いよいよ第79回国民スポーツ大会が目前に迫ってきました。全国各地より多くの選手・監督・関係役員そして応援・サポーターの皆さんを迎えて、滋賀県では44年ぶりの開催です。選手の皆さんがどのような活躍を見せてくれるのか楽しみです。

また、運動施設整備も進められ、陸上競技の主会場となる平和堂 HATO スタジアムは県内唯一の国際大会が実施できる第1種陸上競技場として整備されました。県内を始め全国のアスリートがこの場で力を出し切っていただくことを期待しています。

さて、滋賀陸上競技協会では、この国民スポーツ大会の滋賀県開催に合わせ、数年前から選手の育成や強化に力を入れてきたところです。国スポ大会が近づくにつれてその成果が徐々に現れ、先般の日本選手権においては、100m桐生祥秀選手や800m落合晃選手の優勝に加え、跳躍、投擲やハードル走において上位入賞を獲得するなどの活躍をしてくれました。このように県内出身の選手が日本選手権や世界選手権に向けて活躍する報道が聞こえてくるにつれ、陸上競技に対する関心も高まってきました。

この盛り上がり、国スポ大会開催による一過性のもので終わらせるのではなく、今後、継続的に県民スポーツの振興につながる取組みになるよう進めていきたいと考えています。

最後に、大会開催にあたりご支援、ご指導をいただいた公益財団法人日本陸上競技連盟、また競技場建設や運営面の支援をいただいた滋賀県や彦根市、地元の皆様をはじめ関係者の皆様に心から敬意を表します。

あわせて、ご参加いただく選手の皆さまのご健闘を祈ります。

## 【強化委員会】

『わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ』の開催まで、いよいよ一月を切りました。



↑ ミーティングの様子

その両キャプテンを中心に、8月22日～23日には合宿を実施しました。成年選手も多数参加し、青木優羽選手（信楽中）・山中選手・山本亜美選手（富士通）・老岐あいこ選手（大阪ガス）らが一緒に補強練習を行うなど、「チーム滋賀」としてのまとまりが一層強まっています。

また、今大会では桐生祥秀選手（日本生命）がリレーに出場します。自身の出身地である彦根市での開催ということもあり、地元への思いを胸に熱い走りを披露してくれることでしょう。

8月の理事会で29名の選手が承認され、8月15日には第1回目のミーティングが行われました。そこで選手たちは、選出の喜びと大会に向けた熱い抱負や意気込みを語ってくれました。

今大会のキャプテンは、昨年に引き続き林拓優選手（HDY ONE）と山中日菜美選手（滋賀陸協）です。昨年も素晴らしい雰囲気を作ってくれた2人は、今年も頼れるキャプテンとしてチームを引っ張ってくれることと期待しています。



ここで、シーズン前半戦を、東京2025世界陸上競技選手権大会に出場される選手を中心に振り返ります。

まずは瀬古優斗選手（FAAS）。8月15日に福井で開催された「アスリート・ナイト・ゲームズ・イン福井」で、参加標準記録の2m33をクリアし、見事代表に選出されました。ここに至るまでには苦しい時期を耐え抜いてきただけに、世界の舞台での活躍がいっそう楽しみです。世界陸上に向けての意気込みを聞かせていただくと『高望みせず、まずは予選で12位以内に入り決勝進出を目指します。一步ずつ着実に跳び進めて最高の結果を手にしたいです。応援よろしくお祈いします！』とのことでした。



photo by Hiyo INABA

続いて湯上剛輝選手（守山高→中京大→現トヨタ自動車）。米国オクラホマで行われた「スローチャレンジ」で64m48の日本新記録を樹立し、代表の座を勝ち取りました。シーズン序盤には『東京世界陸上だけでなく、地元滋賀での国スポや東京デフリンピックでの活躍はもちろん、自己ベストを大幅に更新したい！』と語っており、その言葉通りのシーズンを送っています。世界陸上から国スポにかけての活躍が期待されます。

そして大学1年生となった落合晃選手（駒澤大）も代表入り。日本選手権で2連覇を果たし、この勢いで念願の世界陸上でも快走を見せてくれるはずですよ。

また、桐生選手は100mとリレーに選出。日本選手権では5年ぶりの優勝を果たし、その走りに感動された方も多かったのではないのでしょうか。世界陸上でどのようなレースを見せてくれるのか、大いに注目です。

滋賀県ゆかりの選手が多数世界陸上の舞台に立つのは初めてではないのでしょうか。9月13日（土）から始まる東京2025世界陸上、皆さん、一緒に応援しましょう！

さらに、ワールドユニバーシティゲームズには落合選手、壹岐元太選手(京都産業大)、奥野由萌選手(甲南大)、西田有里選手(立命館大)の4名が出場しました。惜しくも悔しい結果に終わりましたが、「再び日の丸をつけたい!」と、さらなる挑戦への強い意気込みを語ってくれました。

その他、キャプテンの山中選手は3年ぶりに自己記録を更新。春先から好タイムを連発し、国スポでも最高の走りが期待できそうです。200mで自己ベストを更新した壹岐あいこ選手や男子砲丸投の佐野拓人選手(びわこ成蹊AC)、怪我から復調の兆しを見せる山本選手、昨年国スポを制した女子ハンマー投の小舘充華選手(染めQ)も安定した記録を残し、前半戦を締めくくりました。

成年選手の安定感と、少年選手の勢いが融合した布陣で挑む今大会。ぜひ会場に足をお運びいただき、現地でのご声援をよろしくお願いたします!

## 【普及委員会】

### ■日清カップ第41回滋賀県小学生陸上競技交流大会 7月6日(日) 皇子山陸上競技場

477名の小学4~6年生が参加し、日頃の練習の成果を発揮してくれました。

その中でも、4年生男子のジャベリックボール投げでは、2名の選手が滋賀県小学4年生男子新記録を樹立し、おおいに盛り上がりました。

今大会の結果により、14名の選手が滋賀県代表として11月2日(日)に開催される日清食品カップ第41回全国小学生陸上競技交流大会に出場します。応援の程よろしくお願いたします。



男子			
6年100m	川橋奏太	ランプロアスリートクラブ	12秒44 (+1.6)
5年100m	岡本獅恩	甲賀JAC	13秒88 (+0.8)
コンバインドA	吉山大雅	SPK IMURA走塾	1857点【80mH:14秒74 走高跳:1m30】
コンバインドB	村瀬瑛基	安土八幡陸上クラブ	1830点【走幅跳:3m97 ジャベ:43m58】
女子			
6年100m	松實珠理奈	大津スキースポーツ少年団	13秒88 (+0.4)
5年100m	饗場萌生	草津JAC	14秒08 (0.0)
コンバインドA	奥村優心	守山陸上教室	1593点【80mH:15秒27 走高跳:1m15】
コンバインドB	大野萌々	SPK IMURA走塾	1785点【走幅跳:4m01 ジャベ:40m81】
混合			
4×100mR	長浜市陸上教室 山崎光莉・茂森奏人・田中悠貴 筑摩侑衣伽・渡邊葵・堤太一		55秒30

滋賀県小学4年生男子ジャベリックボール投げ新記録		
西田大誠	びわこRUNNERSクラブ	41m07
西村玲雅	滋賀レイクスターズTrack&Fieldクラブ	39m99



## 【 中体連 】

### ■第74回近畿中学校総合体育大会 8月6日(水)～7日(木) 平和堂HATOスタジアム

滋賀県勢は、男子3年生100mで青木優羽選手(信楽中)、男子共通400mで田中大己選手(聖徳中)、女子低学年4×100mRでは仰木中チームがそれぞれ優勝を果たしました。

### ■第52回全日本中学校陸上競技選手権大会 8月17日(日)～20日(水) 沖縄県総合運動公園陸上競技場

女子100mで向井瑠海選手(立命館守山中)が12"16(-0.2)の記録で6位入賞を果たしました。向井選手は近畿総体で11"99をマークしており、10月に開催されるSHIGA国スポ少年Bの部での活躍に期待をしています。

男子400mでは田中選手(聖徳中)が、トライアルレースで滋賀県歴代2位となる49"52をマークしました。今後の記録更新が楽しみな選手です。

## 【 高体連 】

### ■2025年度全国高等学校陸上競技対校選手権大会

7月25日(金)～7月29日(火) ホットスタッフフィールド広島

今年度の全国インターハイには、個人種目で男子11名と女子3名、リレーで彦根翔西館高校の女子4×400mRメンバーが出場しました。大会3日前に暑熱対策として競技日程やフィールド種目の試技数に変更されるなど難しい状況の中でしたが、その中でも、男子1500mで伊勢村矜太選手(滋賀学園高)が県高校新記録となる3'43"96の記録で7位、男子ハンマー投で米崎暖翔選手(滋賀学園高)が64m38cmの記録で4位、男子やり投で杉藤立基選手(草津東高)が63m73cmの記録で4位と力を出し切ってくれました。また、七種競技において諸木陽菜紗選手(守山高)が4829点の県高校新記録となる点数で5位入賞と、男女合わせて4種目で全国大会での入賞という素晴らしい結果を残してくれました。今後は、10月に控えるSHIGA国スポや、来年滋賀県で開催される全国インターハイで活躍してくれる選手が増えるよう、高体連として全力で取り組んでまいります。



県高校新記録を樹立した諸木選手(左の写真)と伊勢村選手(右の写真)

## 【 編集後記 】

シーズン前半戦も本当にたくさんの選手が活躍されました。この勢いのまま、いよいよ『わたSHIGA輝く国スポ・障スポ』に突入いたします。選手と役員そして現地での観戦をはじめ、さまざまな形でサポートして下さる方々と一体となって盛り上げ、最高の競技会を作っていきたいと思っております。応援のほどよろしくお願いいたします。